

令和2年6月27日

専門学校 神田外語学院 学校関係者評価報告書

学校法人 佐野学園
専門学校 神田外語学院
学院長 糟谷幸徳

学校法人佐野学園 専門学校神田外語学院 学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を行いましたので、下記の通り報告いたします。

1. 実施日：令和2年6月19日(金) 12:00～17:00

2. 場所：専門学校神田外語学院3号館7階プラザアズール

3. 出席者：

・学校関係者評価委員

高柳信三郎	神田駅西口地区まちづくり市街地再開発準備組合 代表理事
鈴木國仁	卒業生、株式会社ベルージュ代表取締役
井出祐一	株式会社全旅 営業推進部 課長
田中清美	卒業生、卒業生保護者
シヨーン晃治マリズ	卒業生

・本学教職員

糟谷幸徳	学院長
長谷川貢	執行役員（教学・研究/エンロールメントマネジメント担当）
阿部潔	就職支援チームシニアマネージャー
棚沢聡	学生支援部ゼネラルマネージャー
松平健二	総務部ゼネラルマネージャー
池田政隆	教務部ゼネラルマネージャー
三村英男	アドミッション&コミュニケーション部 アシスタントゼネラルマネージャー

4. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、平成30年度に実施した「自己点検評価」を学校関係者委員の皆様にご確認頂き、自己点検評価の各項目に対する評価とご意見を頂きました。
当日は施設見学、授業見学(オンライン授業)も実施し、本学の取り組みへの理解を深めて頂きました。評価結果は、今後の本学における教育活動や学生指導等、学校運営の改善に活かし、ホームページ等に公表いたします。

5. 学校関係者評価・意見

評価項目に対する学校関係者の評価及び意見、提案（以下、評価等という）をご報告いたします。

評価	A. 適切	B. ほぼ適切	C. やや不適切	D. 不適切
----	-------	---------	----------	--------

I 教育理念・目的・育成人材像

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【1-1】 理念・目的・育成人材像	1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	A（5名）
	2 育成人材像は専門分野に関する業界等の人材ニーズに適合しているか	A（4名）、B（1名）
	3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	A（4名）、B（1名）
	4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	A（4名）、B（1名）

理念、目的、育成人材像は明確に定められ、専門分野に関する各業界のニーズにも適合している。特色ある独自のプログラムを積極的に取り入れる事で、社会の変化するニーズに対しても柔軟に対応する姿勢もあり、明確な将来構想の下、グローバル化の進展に合わせスピード感のある対応を行っている。

II 学校運営

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【2-2】 運営方針	5 理念等に沿った運営方針を定めているか	A（4名）、B（1名）
【2-3】 事業計画	6 理念等を達成するための事業計画を定めているか	A（4名）、B（1名）
【2-4】 運営組織	7 設置法人の組織運営を適切に行っているか	A（4名）、B（1名）
	8 学校運営のための組織を整備しているか	A（4名）、B（1名）
【2-5】 人事・給与制度	9 人事・給与に関する制度を整備しているか	A（3名）、B（2名）
【2-6】 意思決定システム	10 意思決定システムを整備しているか	A（4名）、B（1名）
【2-7】 情報システム	11 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	A（4名）、B（1名）

職員に周知徹底されている建学の理念を具現化するべく運営方針、事業計画も明確に定めており、組織運営も適切に行われている。稟議規定も整備され、意思決定システムも明確。学生管理系、業務系、教育系と情報システムも適正に整備、機能しており問題無し。組織の活性化と更なる発展を図るべく、部門間の柔軟な人事交流の活発化が今後の課題である。

Ⅲ 教育活動

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【3-8】 目標の設定	12 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	A（5名）
	13 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	A（5名）
【3-9】 教育方法・評価等	14 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	A（5名）
	15 教育課程について外部の意見を反映しているか	A（5名）
	16 キャリア教育を実施しているか	A（5名）
	17 授業評価を実施しているか	A（5名）
【3-10】 成績評価・単位認定等	18 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	A（5名）
	19 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	A（4名）、B(1名)
【3-11】 資格・免許の取得の指導体制	20 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	A（5名）
	21 資格・免許取得の指導体制はあるか	A（5名）
【3-12】 教員・教員組織	22 資格・要件を備えた教員を確保しているか	A（5名）
	23 教員の資質向上への取組を行っているか	A（5名）
	24 教員の組織体制を整備しているか	A（5名）

学科毎の目標設定は明確に定められている。カリキュラムも適正な内容、方法論で構築され、学生のニーズ、社会のニーズへ柔軟に対応、その評価も適正に行っている。成績評価や単位認定についても内容を明示、周知し、厳格に運用している。専門学校としての責務ともいえる資格取得の支援体制も整っており、各学科毎に適正な対応を行っている。教育の質向上を第一義とし、それを支える教員についても資格・要件、並びに人間性をも加味した厳正な選抜採用を実施している。教員としての資質向上の為にワークショップ開催や研修、学会参加支援等も積極的にを行い、併せて教員の管理体制を強化し教育の質を担保すべく、教員の役職者任命と教員指導体制を布いており、適切に機能している。

IV 学修成果

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【4-13】 就職率	25 就職率の向上が図られているか	A（5名）
【4-14】 資格・免許の取得率	26 資格・免許取得率の向上が図られているか	A（5名）
【4-15】 卒業生の社会的評価	27 卒業生の社会的評価を把握しているか	A（5名）

卒業生の進路の約半数を占める就職希望者に対する支援体制は十分整備されており、就職率についても活動者については100%の内定を獲得する結果となっている。学修成果の指標の一つである資格取得についても、各学科毎に目標設定を明確にし、対策を実施すると共に、共通必修科目としてTOEIC対策に注力するなど、学院全体で学生の学修成果の向上に取り組み、成果に繋げている。卒業生の動向については、学園の卒業生連合組織と就職支援部署が連携し、幅広い分野で活躍を見せる卒業生の把握に努めている。

V 学生支援

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【5-16】 就職等進路	28 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	A（5名）
【5-17】 中途退学への対応	29 退学率の低減が図られているか	A（4名）、B（1名）
【5-18】 学生相談	30 学生相談に関する体制を整備しているか	A（4名）、B（1名）
	31 留学生に対する相談体制を整備しているか	A（4名）、B（1名）
【5-19】 学生生活	32 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	A（5名）
	33 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	A（5名）
	34 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	A（4名）、B（1名）
	35 課外活動に対する支援体制を整備しているか	A（3名）、B（2名）
【5-20】 保護者との連携	36 保護者との連携体制を構築しているか	A（4名）、B（1名）
【5-21】 卒業生・社会人	37 卒業生への支援体制を整備しているか	A（2名）、B（3名）
	38 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	A（3名）、B（2名）
	39 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	A（4名）、B（1名）

進路に対する支援体制は充実しており、就職、大学編入、留学とそれぞれ進路別に専任の職員とカウンセラーからなる部署を設置し、支援にあたっている。また、学生生活を支える体制構築にも注力しており、担任制によるきめ細かいケアはもとより、健康面では医務室、心理面では学生相談室において専門のカウンセラーを配置し、対応にあたっている。学生の悩みや相談をいち早く解決する体制を布くことにより、中途退学希望者の早期ケアと退学防止に努めており、退学率については減少傾向を保っている。経済的な問題を抱える学生については、保護者との連携の下、各種奨学金受付や制度の紹介を積極的に行っており、学費の延納等についても柔軟に対応している。近年の学生の志向から、課外活動は活発とは言えない状況であるが、支援体制は整備し学生へ周知している。今後は、卒業生のキャリア支援分野での支援体制を更に強化していく余地を残している。

VI 教育環境

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【6-22】 施設・設備等	40 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	A（3名）、B(2名)
【6-23】 学外実習・インターンシップ等	41 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	A（5名）
【6-24】 防災・安全管理	42 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	A（4名）、B(1名)
	43 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	A（5名）

教育環境としては概ね、適正な整備がされており、計画的な修繕や更新が実施されている。在学生のみならず、教職員の環境整備にも注力し、法定点検もクリアしている。防災に対する意識も高く、消防計画などに基づいた点検や検査の実施、防災避難計画を持っている。防犯面、安全管理面にも設備投資を行い、安全かつ快適なキャンパスライフを送れるよう適切な配慮がなされている。学外実習、インターンシップ、海外研修についても豊富な選択肢を用意し、安全かつ適切に実施されている。

VII 学生の募集と受入れ

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【7-25】 学生募集活動	44 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	A（5名）
	45 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	A（5名）
【7-26】 入学選考	46 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	A（5名）
	47 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	A（5名）
【7-27】 学納金	48 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	A（5名）
	49 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	A（5名）

学校情報発信については様々な媒体を駆使し、募集活動全般に亘り適切に行われている。入学選考にあたり、基準は明確であり、丁寧な試験実施及び合否判定がなされている。一方、学納金の算定においては十分な検討がなされ、理事会等における厳正な審議を経て決定されており、各年度の決算状況からみて適正であると判断する。入学辞退者については文部科学省の通達に基づき募集要項に明記の上、判例に準じて適正な取扱いを行っている。

VIII 財務

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【8-28】 財務基盤	50 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	A（5名）
	51 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	A（5名）
【8-29】 予算・収支計画	52 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	A（5名）
	53 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	A（5名）
【8-30】 監査	54 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	A（5名）
【8-31】 財務情報の公開	55 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	A（5名）

消費収支比率、規則終始差額比率より現状の財務基盤は良好と判断できる。中長期経営計画に基づき、財務分析も適切に行われている。また予算・収支計画は単年度、中期に亘り策定されており、適正に執行管理されている。会計監査についても適切に実施され、現状特段の指摘事項もなく適正とされている。また学内監事により公認会計士との連携の下、理事会・評議員会に上程され、これについても適正と判断されている。その情報はHPで広く公表されており、透明性のある経営と判断する。

IX 法令等の遵守

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守	56 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	A（5名）
【9-33】 個人情報保護	57 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	A（4名）、B(1名)
【9-34】 学校評価	58 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	A（5名）
	59 自己評価結果を公表しているか	A（5名）
	60 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	A（5名）
	61 学校関係者評価結果を公表しているか	A（5名）
【9-35】 教育情報の公開	62 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	A（5名）

学院長はじめ教職員全体にコンプライアンス重視の意識が行き渡り、コンプライアンス及び個人情報保護の観点から制定された規程まで、法人の定めた諸規程を教職員に知らしめることにより統治が図られている。学校評価についても適切に実施、公表されている。情報公開についてはウェブサイト、入学案内等により、積極的に公開すると共に、英語指導者、英語学習者を対象としたイベント開催などを通じて積極的に教育情報の公開を行っている。

X 社会貢献・地域貢献

中項目	小項目（指標）	学校関係者評価
【10-36】 社会貢献・地域貢献	63 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A（5名）
	64 国際交流に取り組んでいるか	A（3名）、B(2名)
【10-37】 ボランティア活動	65 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	A（5名）

キャリア教育において各業界でのインターンシップ実施や、ビジネスセミナー、カウンターセールス実習など、産学連携にも注力している。また地域イベントへの協力や参加などを通して地域とのつながりを持ち、相互の協力体制を構築している。国際交流にも積極的に取り組み、ボランティア活動の紹介も含め、学生に様々な機会を提供している。

総評： 平成30年度の自己点検評価上記37項目については概ね、各項目において適正という評価となり、神田外語学院の教育活動、学校運営は適切に行われ、高い水準であると評価されるに至った。しかしながら、更なる取り組み強化、改善を求められる項目もあり、次年度自己点検評価における改善を図る所存である。今後の課題としては、人事制度面における活性化、学生課外活動、及び卒業生支援の活性化、施設の更なる安全性の向上などに取り組んで参りたい。

学院長 糟谷幸徳